第 2016-17 号

恵みと真理のニュース

2016 年 4 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は当会長牧師の祈りを通して 私に驚くほどの神癒の恵を与えてくださいました

舅姑を通してイエス様に出会い信仰生活を始めました。信実で愛が多い姑に導かれ拒否感もなく教会に通うようになりました。神様の恵みでした。礼拝に参席して御言葉を聴き聖徒をついて祈ったり賛美したりすると心が平安になりました。 なぜ今になって福音を知るようになってイエス様を信じるようになったのか、今まで私を伝道する人がいなかったことが気の毒だったし、礼拝の楽しむを知らなくて生きて来たのがもったいないと思いました。　姑は天国に行く前一ヶ月に一回は私の家に来るといつも共に家庭礼拝をしました。姑と共に礼拝を捧げたのが懐かしいです。今は父母もイエス様を受け入れ主の中で福ある人生を送っています。

何年前、たくさん雪が降る日でした。私は道で転んでしまって左のお尻の骨を痛めました。これを軽く思って続けて治療を受けなく疎かにしたのが後で重い病気の原因になりました。時間が経ってお尻の骨盤が痛んで何日が持続的に病院で治療を受けましたが時間が経つほどもっと痛かったです。結局様々な検査を受けましたが骨盤の骨に癌細胞が見えると言われました。驚きました。

前が見えなくて暗かったです。しかし、すぐ私の魂を救ってくださって私に新しい命をくださる神様の愛や恵ある哀れみと全能なる主を考えました。

“ラパ神様、治療の神様がいらっしゃるのになぜ恐れるのか？”

このような信仰の胆力で治療に対する希望が出来て聖霊の慰められ心が平安になりました。神様の治療と祈りの答えに対する聖書の御言葉を黙想し、イエスキリストの名によって求めるのは神様が答えてくださるのを信じて切に祈りました。そうするうちに“私があなたを守る、何も心配するな。”とする主の声が私の耳から聞こえて来たような奇妙な体験もしました。涙が出て喜びました。

その間放射線治療を17回も受けました。いくら痛くて治療の過程が苦しくても落胆しませんでした。家族と聖徒の前でいつも信仰と希望のことばを話して神様を仰ぎながら誠実に治療を受けました。区域の勧士をはじめ多くの聖徒が私のため祈ってくださったからです。毎日のように私のため祈ってくださいました。感謝する事です。治療を受ける中で勧士の紹介で放送通信宣教会でも奉仕しました。私の闘病を知った宣教会の会長の長老が当会長牧師の祈りを受けるように勧めました。

当会長牧師がここアンサン聖殿で来て水曜礼拝を導いた日に礼拝が終わって牧師に祈りを受ける多くの聖徒と共に道を並んでいるが、自分の 順番が近づくにつれ、胸がすごくドキドキして震えました。そして、自分の順番になると牧師が奥ゆかしい愛の目で“執事、今までご苦労様でした。”と慰めてくださって、涙が止まらなかったです。続けて頭に手を当てて祈ってくださいました。すると急に左の骨盤骨が熱くなりました。瞬間“神様が私を治療してくださるのだ。”確信を持つようになりました。

その次の週の月曜日に病院で血液検査、骨密度検査、C.T撮影を受けました。そして次の主に旦那と共に結果を見るため病院に行きました。どころが驚く奇跡が起きました。血液検査の結果は正常で骨密度の検査も私の年より若く出ました。CT検査も骨の細胞が更新されていると言われました。結果を確認してすぐ旦那が“神様が治療してくださいました。”と信仰の告白をして医師の前で神様に栄光を捧げました。ハレルヤ！

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。（ヨハネの福音書3：16）

“わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。”（詩篇73：28）健康になった私は朝ことにこの御言葉を黙想して感謝と喜びで一日をはじめていつも新しく豊かな主の恵みと愛を感じて生きています。

天国に入るその日までいつも礼拝の感激と喜びが充満して大きい声で賛美し祈ってまた健康な足で福音を思いきり伝える生活になるように祈ります。神様に全ての栄光を捧げます。命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。（詩篇23：6）アーメン

［信仰コラム］

全 天 候 信 者

＂変らない真実をもって、わたしたちの主イエス.キリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。＂（エフェソの信徒への手紙６：２４）

＇全天候＇という言葉はどんな気象条件でも使うことができることや活動できることを意味します。この世にはどこでも気象に変化があり昼と夜があるように、誰にも生活の起伏と変化があります。信者の中には状況によって信仰状態が変わる人がいます。私達がいかなる状況でも相変わらず神様を信じて愛する＇全天候信者＇になるために心に置いて適用し実践すべきである三つを調べてみましょう。

第一は、神様の主権と思いを順々に受け入れるべきです。

全天候信者達から探すことができる共通点があります。それは、彼らが神様の絶対的な主権と思いを順々に受け入れるということです。神様が行われることが自分の期待に至らなくて理解できなくても問題視しません。旧約聖書のヨブ記に登場するヨブはこのようなことに卓越な手本になります。ヨブは押し寄せた災難で一朝にして財産と妻子を全て失い、体に深刻な腫物ができて灰の中に座り、陶器の破片で自分の体をかく状態に至りました。しかし、彼は神様を恨む罪を犯さず、絶対者である神様の絶対的な主権と思いを順々に受け入れました。ヨブは神様の恵みを受けてその後に 140 年を暮しながら以前より豊かな生活をするようになりました。

第二は、神様に仕えることを生活の目的に扱うべきです。

背教する人々は常に存在しましたが、末世には背教が有り触れで大々的に起こることが聖書に予言されました。背教とは、信仰を捨てて変節することです。全天候信者達から探すことができるもう一つの共通点は、彼らが神様に仕えることを生活の目的に扱っているということです。神様に仕えることを生活の目的に扱っている人々はいかなら場合でも神様から離れません。神様に仕えることを生活の目的に扱う人は賢しくて強い人になります。この世のことに執着せずに生死を超越した姿勢で生きていきます。シャデラク、メシャク、アベデネゴは俯きさえすればバビロン帝国で権勢と栄華を続いて享受することができたのに、死の危険を冒して王が造った金の像の前に拝みませんでした。彼らには神様に仕えることが生活の目的で以外は手段に過ぎなかったからです。この世の物を得ようとする目的で信仰生活をすることは正しい態度ではありません。聖徒は財物や権勢、名声を神様に仕えて神様に対する愛を表すための手段に扱うべきです。神様に仕えることが目的である人は聖書のお言葉を信じて述べ伝えることに妥協がありません。聖書の通りに信じて聖書の通りに伝えます。聖書のお言葉に至らなくて聖書のお言葉を過ぎてしまういかなる哲学や思想、そしていかなる教理も排撃します。この世の誘惑、異端の迷惑、不信者の逼迫、様々な艱難が押し寄せても相変わらず神様を信じて愛します。

第三は、神様の属性と言約を徹底に信頼すべきです。

全天候信者達から探すことができるもう一つの共通点は神様の属性と言約を徹底に信頼するということです。神様に向いた信仰は漠然なことではありません。神様の属性が信仰の根拠です。神様は愛であります。神様の愛は差別がなく豊かであり、絶えることができなくて変わらない永遠な愛です。神様は明哲と知恵が限りがありません。聖徒各人に何が有益であるかをご存じであり、最も良い時と最も良い方法もご存じであります。神様は全能で真実です。また、神様の約束が信仰の根拠です。神様の約束は必ず成就されます。神様の言約を堅く信じると心の中に落胆と絶望が入る余地がありません。万事が益となるようにしてくださることを期待するようになります。私達の一生に黒雲が覆い、雷がなる時でも神様が私達の有益のため奇異なことを経営してくださいます。

皆さんは、全てのことに最善を尽くしながら神様の主権と思いを順々に受け入れてください。神様に仕えることを生活の目的に扱ってください。聖書に掲示された神様の属性と言約を堅く信じてください。そうしていかなる状況でも相変わらず神様を信じ、愛する全天候信者になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰生活をなぜそのように難しくしますか

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

“信仰生活をなぜそのように難しくしますか!”この言葉は不信者が信者に言うことではないです。 礼拝と奉仕に力をつくしてイエス様の外には救世主がいないと信じる人を向けて他のある信者がこれをつまされるように思って言った言葉です。

今日はこんな言葉がいくら愚昧な言葉なのかを説明して差し上げて同時に正しい信仰生活に対してよく見ます。 罪の赦しを受けて義人になって神様の子になることは易しいが神様の子らしく生きる信仰生活は難しいです。

私たちが義人になって神様の子になることはとても易しいです。

この事は私たちができない事であるからです。人間の行為では罪人という本質を解決することができないです。 そうするから義人になって神様の子になることがとても易しいです。 これは驚くべきな逆説です。 こんな事がどのように可能ですか?その返事はイエスキリストにあります。 ローマ人への手紙 8 章にこんなに記録されています。 “こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。”(ローマ人への手紙 8:1,2) 人間は全面的に腐敗して堕落して神様の公義の審判を受けて刑罰に処されるしかない存在です。 このような人生を救いしようと神様がイエスキリストによるあがないの恵みを施してくださいました。

イエスキリストの中にいる者は定む罪を受けないです。 罪がない者であるからではなく神様から罪の赦しを受けて義のあるという判決を受けたからです。 “律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。”(ローマ人への手紙 8:3,4) アダムの犯罪によってすべての人が罪性を持って生まれるからこの理由で律法の要求を実践する能力がないです。 このような人生のために神様がイエスキリストを世の中に送りました。 罪のないイエスキリストが人間の身を着て世の中へいらっしゃって人間のすべての罪を担当して審判を受けてたまらなかったです。そしてまた復活しました。 そしてイエスキリストを信じる者は律法の要求をすべて成したことで見なされて罪で自由を得るようになります。義人になって神様の子になった人々は難しくて大変に信仰生活することを覚悟しなければなりません。

義人になるためではないです。 神様の子になるためではないです。 義人であるから義人らしく生きなければなりません。 神様の子であるから神様の子らしく生きなければなりません。神様の子になる前と後の差は追い求めるのが違います。 神様の子になった人は霊のことを思って神様の子ではない人は肉体の事を思います。 霊のことと言うのは霊的なこと、神霊な事を意味します。具体的に言えば礼拝と福音伝道を中心にすべての事を計画して行うことを言います。 肉体の事と言うのは人本主義で行うことを言います。 一身上の栄達のみのためで、人間の名前のためにすべての事を計画して行います。 “もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。 わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。” (ローマ人への手紙 8:17,18) としました。 神様の子は神様から途方もない相続を受けるようになります。 永生と復活と天国そして賞を受けるようになります。 義人らしく、神様の子らしく生きて行くことは難しくて大変な事です。 しかし価値あってやりがいのある事です。 祈祷に力をつくして集まるのを力をつくして聖徒を助けるために力をつくして福音を伝えるために力をつくして神様の仕事に力をつくさなければなりません。

信仰生活が難しくて大変な理由がまたあります。イエスキリストがおっしゃるのを “狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。”(マタイによる福音書 7:13,14) としました。 アダムとエバが子を生み始めながらこの地に人々が急速に増え始めました。 当時の人々は長く生きながら子を生んだから人口が急速に増しました。 アダムの子孫は霊的な面から二つの部類で分けられました。 人本主義者で殺人者であるカインの子孫と神本主義者で敬虔な生活をするセツの子孫です。 人がますます盛んになりながらこの二つの部類の間に区別がないので急速に人間の中は神様を逆う人本主義の社会になって行きました。 心に神様を置きたがらないだけなく、被造物を造物主のように仕える偶像崇拝で走り上げるようになりました。 神様が人の罪悪が多くてその心に思うすべての計画がいつも悪しいだけのことを見ました。

神様が世の中を洪水で審判なさることに決心しました。 そんな人々の中に神様に恵みを受けた人がいました。 その名前はノアです。 ノアは当代に義のある人できずがなかったし神様とお供しました。ある日神様がノアに重大な発表をしました。

“そこで神はノアに言われた、「わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう。” 神様はノアに指示するのを “あなたは、いとすぎの木で箱舟を造り、箱舟の中にへやを設け、アスファルトでそのうちそとを塗りなさい。その造り方は次のとおりである。すなわち箱舟の長さは三百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトとし、 箱舟に屋根を造り、上へ一キュビトにそれを仕上げ、また箱舟の戸口をその横に設けて、一階と二階と三階のある箱舟を造りなさい。わたしは地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、みな天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶えるであろう。ただし、わたしはあなたと契約を結ぼう。あなたは子らと、妻と、子らの妻たちと共に箱舟にはいりなさい。” 告げた後、“わたしは地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、みな天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶えるであろう。またすべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二つずつを箱舟に入れて、あなたと共にその命を保たせなさい。それらは雄と雌とでなければならない。すなわち、鳥はその種類にしたがい獣はその種類にしたがい、また地のすべての這うものも、その種類にしたがって、それぞれ二つずつ、あなたのところに入れて、命を保たせなさい。また、すべての食物となるものをとって、あなたのところにたくわえ、あなたとこれらのものとの食物としなさい」。”(創世記 6:17～21)とおっしゃいました。

神様の約束と指示を受けたノアがどんな態度を取ったのですか? 聖書には “ノアはすべて神の命じられたようにした。”(創世記 6:22, 7:5)と言うお言葉が二度記録されています。ノアは人々の嘲弄と非難にもものともせずに遵行しました。 長年の歳月にもくたびれないで遵行しました。 彼は難しくて大変な狭き門と狭窄した道を選択しました。 ノアは箱舟の内に入る日まで神様のお言葉どおりすべて遵行しました。 箱舟がすべて作ったある日神様がノアにおっしゃいました。 “ノアは子らと、妻と、子らの妻たちと共に洪水を避けて箱舟にはいった。” まだ雨が降らない中にノアが息子と妻たちとともに箱舟に入って行きました。ついに神様が猶予した七日が経ちました。 神様が親しく箱舟の門を閉めました。そして“それはノアの六百歳の二月十七日であって、その日に大いなる淵の源は、ことごとく破れ、天の窓が開けて、雨は四十日四十夜、地に降り注いだ。”(創世記 7:11,12)と言うお言葉のように想像を超えるものすごい津波が起こって、途方もない地下水が地の上でほとばしりました。空に保存されていた水が一斉に溢れて下りました。 40 日間の昼夜に溢れました。 箱舟は水の上に浮び上がりました。 しかし世界中は水に浸ったし神様のお言葉を不信して逆らった他の者はすべて水に沈んで死にました。 ペテロの第一の手紙, 3 章 20 節に “これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。” と言いました。イエス様がおっしゃるのを “狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。”(マタイによる福音書 7:13,14) としました。

神様が再臨なさる日が近いほど狭き門と狭窄した道に行くことをもっと深く実感するようになるでしょう。 信仰生活がもっと難しくて大変だろう。 しかし狭き門と狭窄した道で行く聖徒は難しくて大変な信仰生活をしても “信仰生活をなぜそのように難しくしますか!” と言う人は分からない喜びとやりがいを感じます。このような喜びとやりがいは世の中が与えることができないし奪うことができないのです。皆さんはこんな楽しさとやりがいを持つ信仰生活をなさるように願いします。